

館で開催された。草川本会理事司会のもと両会会長の挨拶に始まり、各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた。

ジュニアパーティ 4月5日午後5時30分より東京大学内山上会議所で開催された。参加者は130名にの

ぼり、参加者中より川崎製鉄技術研究所野原清彦氏ならびに金属材料技術研究所佐藤彰氏に司会を依頼し、郡司講演大会分科会主査の乾杯の音頭で始められた。若手技術者、研究者を中心に自由に懇談がなされ、親交を深めた。

.....
書 評
.....

耐火物とその応用

本書は耐火物入門書とすることを第一の目的として編集された由であるが、出来上った内容は単なる入門書ではなく、耐火物の製造者や使用者が知っておくべき専門的な事項まで包含されており、耐火物に関する最新の教科書であるといえることができる。

まず「概論」は耐火物の歴史と基礎的な科学について、よくまとめられており、次の「耐火物の原料」は各種の天然原料と合成原料に関して、かなり詳細に説明されている。続いて「耐火物の物理化学」の冒頭部分には、相平衡、結晶化学、微構造、焼結などについて専門的にのべられているが、数式を使った説明はやや難解であろう。次に微構造の試験方法と物理的、熱的性質の測定方法が説明されており、続く「高温度における反応と変化」、「耐火物の損傷と実例」と共に有益な解説である。

以上が本書の前半を構成する基礎編であり、後半を構成する「耐火物各論」と「窯炉と耐火物」の両編は、応用編であるといえるであろう。前者では各種耐火物について、それぞれの原料、製造方法、品質と用途がのべられており特に不定形耐火物と非酸化物系高温材料の項は最近の知識をよくまとめられているので参考となろう。後者は鉄鋼工業をはじめとして非鉄金属工業、化学工業、焼却炉、窯業、セメント工業、耐火物工業などの各種工業用炉についてそれぞれの炉構造や使用耐火物について解説されており、好適なガイド編である。

以上、本書の内容を概観したが結論的に言うならば、本書は耐火物関係者にとって重宝なコンサルタントとなることができるであろう。

(太田 豊彦)

B 5 判, 453 頁, 耐火物技術協会発行, 6000 円 (〒 400 円)